

# 景観保持か 安全確保か

## 金沢・石川橋相次ぐ転落死亡事故

国指定重要文化財の金沢城石川門と兼六園を結ぶ石川橋（金沢市兼六町）で先月から今月にかけて、飛び降り自殺を凶ったとみられる死亡事故が2件相次いだ。国内有数の観光地ということもあり、景観保持と安全確保の兼ね合いは大きな課題。金沢市の街づくりに取り組む金沢大名誉教授の川上光彦さん(71)「都市計画」と現場を歩き、対策を考えた。【岩壁峻】



事故が起きた石川橋を訪れた金沢大の川上光彦名誉教授—金沢市兼六町で

### 金沢大・川上名誉教授と現場を歩く

2件目の事故から一夜明けた2日。平日にも関わらず、金沢城公園や兼六園を訪れる観光客は引きも切らない。「県にとっても歴史的に重要な場所。緊急的な措置でネットを張ることも考えられるけど、景観的にはない方がいいですね」。兼六園方向から石川門へと足を向けながら、川上さんはつぶやいた。

風景になじむ事故防止策としては、橋の内側に植木鉢を並べて欄干と「距離」を取ることも考えられるという。人的対応では、観光案内役を兼ねた警備員を配置する案も。ただ、「予算の問題もあるし、時間帯によっては難しいのではないか」と川上さん。

即時的な対策について、行

## 観光と両立 対策検討を

定もない。清掃など日常的な維持・管理を担う県金沢城・兼六園管理事務所は職員に、橋周辺の人の流れを注視するよう呼びかけたという。ただ、関係者は「大勢の観光客がいる前で『飛び降りないで』とも言えないし……」と対応の難しさを明かす。地元の金沢城兼六園商店会も静観の構えだ。土産物屋を営む50代男性は「橋の上は、城周辺の建物や桜の撮影スポット。欄干に柵などを新たに作れば、撮りにくくなる」と話す。

政は否定的だ。県教委文化財課によると、石川橋自体は国の文化財ではないものの「石川門と一体になった国の財産」という扱いで文化庁が所有し、県が管理を委託されている。事故防止の対応も県が判断することになるが、文化財課は「現状として石川橋の安全性に問題はない」とし、現段階で注意を呼びかける看板などを設置するといった予定だ。

### 自殺とみて捜査

石川橋では9月5日午後2時ごろ、金沢市内の40代女性が約10段下の県道に転落し死亡。今月1日午前6時半ごろには、市内の20代とみられる男性が県道で倒れているのが見つかり、搬送先で死亡した。金沢中署によると、周辺の防犯カメラに男性が欄干を乗り越える姿が映っていた。同署はいずれも自殺とみて調べている。県金沢城・兼六園管理事務所によると、石川橋の欄干は高さ約1・1メートル。